

札幌市まちづくり戦略ビジョン審議会 経済・雇用部会（早川委員提出資料）

委員 早川渉

<具体的な提案の核>

札幌市立大学にコンテンツ産業の担い手を育てる新しい学部を新設する。

札幌市が今後取り組んでいくべき新しい産業、成長が見込め市民の夢を育む産業として、「コンテンツ制作」「メディアアート」関連産業を取り上げる。新しい学部は中核組織としてこの新しい産業への人材供給を行いつつ、研究拠点も担う。

<提案の背景>

- ・ 2006年3月「創造都市宣言」。昨年秋の「コンテンツ特区」申請。札幌市の方向性・・・この際、今ひとつ分かりづらい文脈「創造」「メディアアート」「コンテンツ」などを整理する。
- ・ 新しい産業を育てていく上で教育的な視点で「人を育てる」必要性。人材育成の基盤作り・・・「どういう人材が必要か？」を産学官共同の視点で。
- ・ 教育、産業をベースに、札幌市立大学を「札幌の大学」に。市立大のブランド化・・・将来的に北大とマッチアップできるだけの個性ある大学に。

<提案のポイント>

- ・ コンテンツを制作する人材とともに、コンテンツをマネジメントできる人材育成が重要。
- ・ 市立大を頂点にその下の高校、中学、小学校に、コンテンツ制作に関連する授業を導入。市をあげて、一貫的な育成イメージを作る。*神奈川県川崎市、埼玉県川口市などで先行事例あり（「映像教育」というジャンル）
- ・ 札幌市の新しい顔となる産業の育成のベースとなる人材教育は、中、長期的な視点が必要
- ・ 「創造・文化」ジャンル（映画は特に）のわかりやすさ、夢の語りやすさ。

<余談>

- ・ 「コンテンツ制作」の中核は「映画」がいいかなと。
- ・ 「映画」は演劇、音楽、美術、メディアアートなど様々なジャンルを横断しやすい。

<その他>

- ・ コンテンツ産業育成、産学官共同の人材教育を含めた「創造・文化」行政を担う部署の新設が必要ではないだろうか。（経済局、観光文化局から一本化）
- ・ 札幌市全体と個別の部署で行われる施策のイメージを統一、わかりやすく市民に伝えるための広報系統の一本化。